

国際学生 EVデザインコンテスト2019 の開催を発表



一般社団法人 電気自動車普及協会 (APEV) は、2013 年から東京モーターショーの開催に合わせて「国際学生 EV デザインコンテスト」を実施しているが、2017 年から対象を『EV 全般』へと変更し、次世代を担う若者の育成を主目的とし、デザインの持つ創造力・企画力を遺憾無く発揮する事により、モビリティ社会の将来のあり方や環境への新しい取り組みを世界に向けて発信している。今年は東京モーターショーの開催年になるので、第 4 回目となる「国際学生 EV デザインコンテスト」を実施するにあたり記者発表会を 1 月 25

日、東京大学・福武ホールで開催した。

「国際学生 EV デザインコンテスト」の目的は、EV の可能性を通して次世代を担う学生を育成すること。単にクルマ(EV)のデザインだけではなく、社会・街・地域の人々・文化等との関わりも含めた環境デザインを募集している。

参加資格は、18 歳以上の学生(2019 年 4 月 1 日時点)で、学校の種類は問わず、2 名～6 名のチームも可、1 校で複数チームも可となっている。一般的なコンペとは違い、制作活動の進捗を SNS を活用して共有することも特色。



国際学生 EV デザインコンテスト 2019 記者発表関係者。後列左から 2 人目が田嶋伸博 APEV 代表理事

EV デザインコンテスト実行委員会

委員長：山下 敏男氏

(APEV 理事、INTERROBANG DESIGN 株式会社代表、首都大学東京客員教授)

副委員長：有馬 仁志氏

(APEV 理事、有馬マネジメントデザイン株式会社代表取締役社長、横浜スマートコミュニティ代表)

審査委員

■審査委員長

中村 史郎 氏

(CEO (株) SHIRO NAKAMURA DESIGN ASSOCIATES、元日産自動車(株)専務執行役員)

■審査委員

安藤 忠雄 氏(建築家、東京大学名誉教授)

奥山 清行 氏

(工業デザイナー、KEN OKUYAMA DESIGN 代表)

長屋 明浩 氏

(ヤマハ発動機(株) 執行役員 デザイン本部 本部長)

パトリック・ルケモン 氏

(工業デザイナー、元ルノー副社長)

ジャン・ファン 氏

(広州自動車グループ デザイン担当副社長)

田嶋 伸博

(一般社団法人 電気自動車普及協会 代表理事)

この「国際学生 EV デザインコンテスト」に対して、審査委員長の中村史郎氏は次のメッセージ



挨拶する横川浩 APEV 会長(日本陸上競技連盟会長)

を寄せている。

「モビリティは歴史の中で社会と共に常に形を変えてきました。現在私達が直面している地球温暖化などの環境・エネルギー問題は、クルマの電動化を促進し、また渋滞・過疎化・高齢化などの問題には自動運転など新技術の導入が求められています。そしてこれら要素は今後のクルマの使われ方や、そのデザインを大きく変えて行くことでしょう。このような時代の変化の中で、これからの社会を担う若い世代に、未来をデザインし提案する『場』として、2013 年から APEV により、EV デザインコンテストが開催されています。第 3 回の前回から対象が超小型モビリティ限定から、EV 全般へと変更となり、将来のモビリティ社会のあり方や環境へ配慮等、幅広い提案が期待されています。そして海外含めコンテストの目的に相応しい方々が審査員として参加しており、コンテスト自体も新たな段階へ向かっていると感じています。また、このコンテストの特徴のひとつに充実したワークショップがありますので、参加者はコンテストを通じ、デザイン提案力のレベルを一段と向上させることができるでしょう。デザインが持つ想像力による新しい提案を世界に向けて訴求していただきたいと思います。是非多くの方々の意欲的な参加を期待しています。」



座談会の司会をする山下敏男 APEV 理事 (INTERROBANG DESIGN 株式会社代表、首都大学東京客員教授)



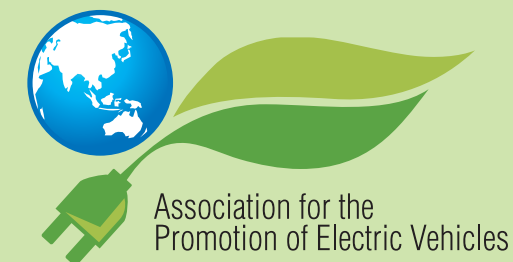
パネラーの西村隆氏(左)と稲葉理夢さん



パネラーの中部主貴氏(左)と林貴之氏



記念講演の日野自動車(株)新事業企画部&コーポレート戦略部主査の松山耕輔氏



【審査方法】

下記の課題を審査する。

①. 実際の使用シーンを想定し(1) ユーザー、(2) インフラ、(3) パッケージング、(4) 新しい技術を駆使し何を実現するのか?を文章や図・グラフで説明する。使用シーンを含んだスケッチ(注): 手書き可

一次審査通過チームにはワークショップに参加する権利が与えられる。

②. 二次審査(8チーム程度のファイナリストを選ぶ) 下記の課題を審査する

一次審査に同じ

・使用シーンを含んだスケッチ(注)のデータ: 2D データ又は 3D データ。二次審査通過チームにはワークショップ2に参加する権利が与えられる。(注): スケッチは、外観(エクステリア)は必須、内装(インテリア)はオプション

③. ファイナリストは、通知されてから表彰式までの間に、(1) ユーザー、(2) インフラ、(3) パッケージング、(4) 新しい技術を駆使し何を実現するのか?を説明するポスター (B1 サイズ 1 枚)を作成しなければならない。

全てのファイナリストは、東京モーターショー会期期間中に東京で行われる表彰式場で作品のプレゼンテーション(パワーポイントにより5分程度)

を行う。

プレゼンテーション結果を含む最終審査により、最優秀賞(グランプリ)を始めとする各賞が決定され、表彰される。

【ファイナリストの作品展示】

全てのファイナリストの作品は、東京モーターショー会期期間中に東京で、ポスター等が展示される。

☆エントリー費: 無料

☆主催者が指定する SNS に登録し、各種案内にタイムリーに回答できること。

☆所属する学校の教員がコンテスト参加を承認し、参加者を指導できること。

☆応募要項の「注意事項」及び「個人情報の取り扱いについて」に同意すること。

*応募作品やコミュニケーションに使用する言語は英語とする(母国語を併記することは可能)

1) オリジナリティ

アイデアが独創的でコンセプトが明快であり、且つ実現の可能性が感じられる。

2) デザイン

時代性・社会性を反映し魅力的である。

3) プレゼンテーション力

プレゼンテーションの表現力、説得力が高い。応

募者自身のオリジナル作品で、国内外で未発表であること。

【賞品】

★最優秀賞、特別賞(経済産業大臣賞、国土交通大臣賞を申請予定。賞の内容や金額は協賛金により別途決定)

★協賛・協力企業が提供する賞(賞の内容は協賛社により別途決定)

★東京モーターショー会期中のプレゼンテーション機会(東京都内で開催予定の最終審査及び表彰式にて)

★トロフィー授与

★コンテスト 2019 年作品集冊子への掲載。すべてのファイナリスト(8 チーム程度)に与えられる

今回の記者発表会では、電気自動車普及協会の横川浩会長の挨拶に続いて、過去のコンテスト過去のコンテストに入賞した若手デザイナー 4 人を招いて、山下敏男実行委員長の司会で座談会を行った。

座談会出席者は以下の 4 人。

■西村隆氏/トヨタ自動車(株)東京デザイン研究所(先進技術開発カンパニー・ビジョンデザイン部/先進デザイン開発室先進デザイングループ)

■稲葉理夢氏/日野自動車(株)デザイン部デザイン室・室内デザイングループ

■中部主貴氏/(株)本田技術研究所・四輪 R&D センター・デザイン室デクニカルデザインスタジオ

■林貴之氏/(株)ダイハツビジネスサポートセンター・商品事業部・商品事業室・事業企画 G・デザイナー

この座談会では、当時、このコンテストに取り組んだ学生時代の思い出や苦労談が話題になったが、「この経験がその後社会に出てからの活動の原点になっている。」ことを、それぞれの立場で語ったのが印象的であった。

また、この座談会の後は、「モてるクルマから持たないクルマ?暮らしたい社会と新しいモビリティの役割」と題して、日野自動車(株)新事業企画部&コーポレート戦略部主査の松山耕輔氏が記念講演を行った。

【問合せ先】

一般社団法人 電気自動車普及協会(APEV)内 安嶋 EV デザインコンテスト事務局長

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京

大学 情報学環・福武ホール

電話 050-3736-8325

メール contest@apev.jp

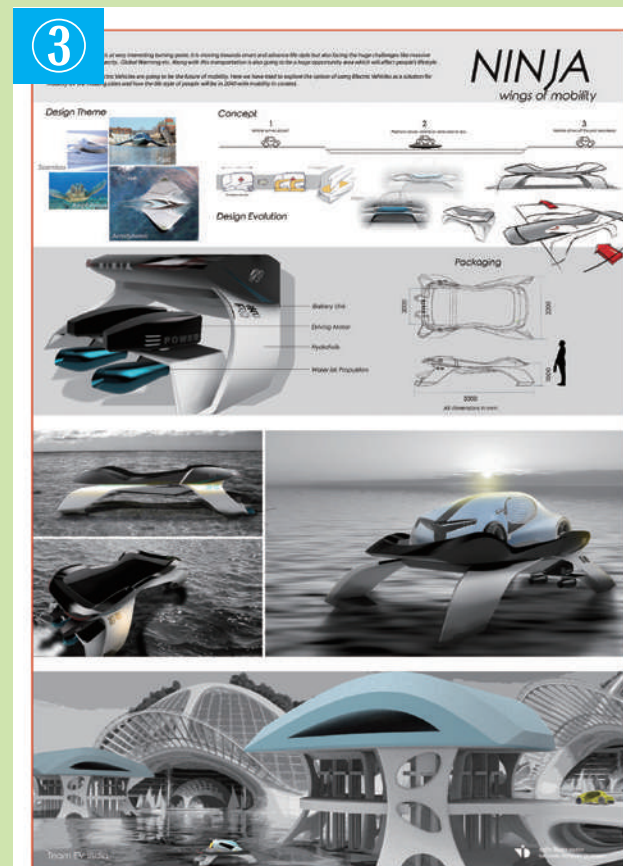
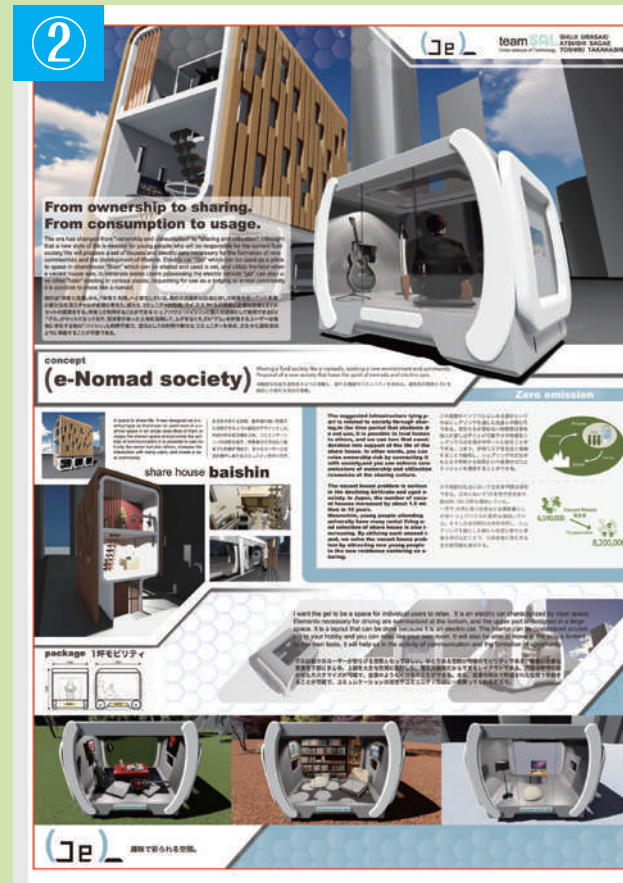
国際学生 EV デザインコンテスト 2017の優秀作品



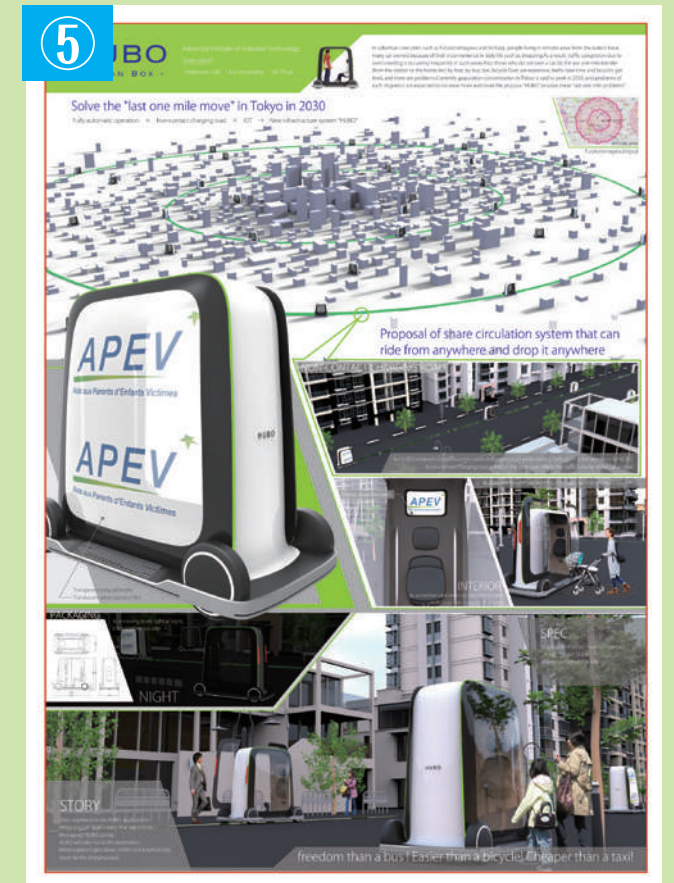
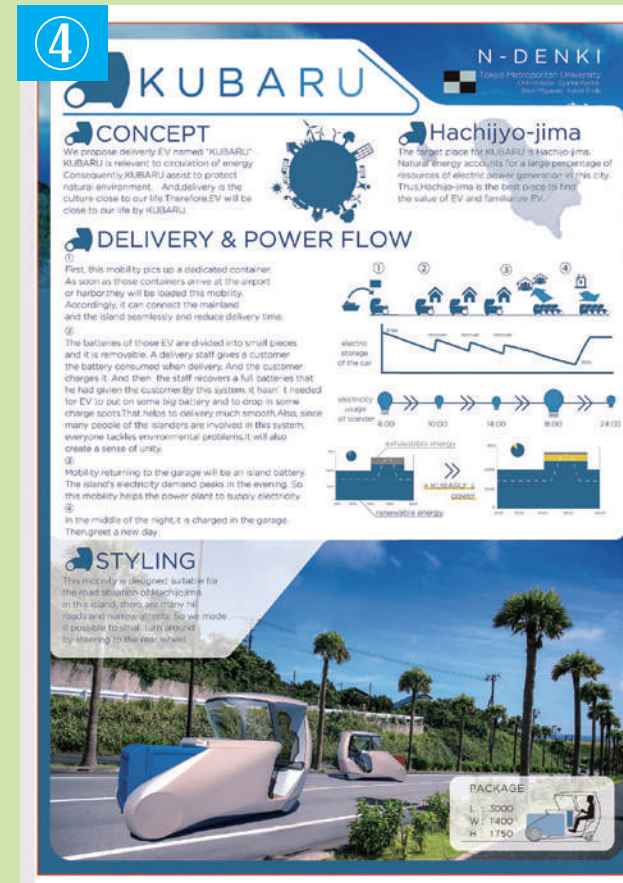
①
最優秀賞 China 広州美術学院

②
経済産業大臣賞 Japan 千葉工業大学

③
カーデザインアカデミー賞 India National Institute of Design 'NINJA'



国際学生 EV デザインコンテスト 2017の優秀作品



④
国土交通大臣賞／ボッシュ賞 Japan 首都大学東京大学院

⑤
NTN 賞 Japan 産業技術大学院大学

⑥
三菱ケミカル賞 Japan 名古屋市立大学

